

第2回青梅市公共交通協議会議事要旨

日 時 平成23年10月31日（月）午後3時から午後5時20分まで

会 場 青梅市役所201・202会議室

出席委員 15名

井上会長、轟座長、古屋委員、池田委員、村上委員（代理）、黒田委員、関根委員、秋山委員、渡辺委員、小村委員（代理）、秀島委員、安野委員、尾澤委員、塩野委員、島田委員

欠席委員 3名

佐々木委員、高津委員、茅野委員

傍聴者数 9名

配付資料 資料1 青梅市公共交通計画策定業務委託プロポーザル実施結果

資料2 第1回青梅市公共交通協議会議事要旨

資料3 公共交通網見直しの検討方針

資料4 青梅市の現状把握

資料5 意向調査、利用実態調査の実施

議 事

1 開会

2 報告事項

(1) 青梅市公共交通計画策定業務委託プロポーザル実施結果について

○ 座長

「2報告事項（1）青梅市公共交通計画策定業務委託プロポーザル実施結果」につきまして事務局から説明願います。

○ 事務局

（青梅市公共交通計画策定業務委託プロポーザル実施結果について説明。）

○ 座長

それでは、御説明いただきました青梅市公共交通計画策定業務委託プロポーザル実施結果に関して、御承認いただきたいと思いますが、御異議ございませんでしょうか。

- 「異議なし」の声多数 -

ありがとうございます。それでは皆様の御承認をいただきました。

3 協議事項

(1) 協議会議事要旨の取扱いについて

○ 座長

つづきまして、協議事項に移ります。

「(1) 協議会議事要旨の取扱い」につきまして事務局から説明願います。

○ 事務局

(協議会議事要旨の取扱いについて説明。) 議事要旨を公開するにあたり、現在作成のとおり発言者が分かる形式、具体的には、「〇〇委員」と記載して公表してよろしいか、あるいは単に「委員」として公開すべきか、お決めいただきたいと存じます。よろしく願いいたします。

○ 座長

それでは、御意見はございますか。

- 発言なし -

事務局側から参考になるものはあるでしょうか。

○ 事務局

企画調整課が本年度、事務局として担当している「青梅市総合長期計画審議会」および「青梅市中心市街地活性化基本計画検討委員会」では「委員」の表示としております。ただし、トップ委員については、秘匿しておらず、当公共交通協議会では、会長、座長がそれにあたります。

○ 会長

ただいま御説明いただきました「委員」の表示でよろしいかと思えます。

○ 座長

それでは、単に「委員」として公表する形式でよろしいでしょうか。

- 「異議なし」の声多数 -

ありがとうございます。それでは皆様の御承認をいただきました。

(2) 公共交通網見直しの検討方針について

○ 座長

「(2) 公共交通網見直しの検討方針」について事務局より御説明をお願いいたします。

○ 事務局

当協議会の23年度における業務計画につきましては、第1回協議会で御説明をいたし、御承認いただいたところであります。その際は項目の列举にとどまっておりますので、さらに詳しく御説明をさせていただきたく資料を用意いたしました。御確認をいただきたいと存じます。

(青梅市における基礎的環境および公共交通網の現状把握、3,000人を対象にした市民アンケートなどによる市民の意向調査、路線バスOD調査などによる公共交通の利用実態調査を実施し、課題の抽出・整理を行い、公共交通網見直しの基本方針を検討する内容について説明。)

○ 座長

ただいま、御説明いただきました検討方針に関して、御意見、御質問をいただきたい

と思いますが、何かございますか。

○ 委員

資料3（2ページ）実施方針の「公共交通網の見直し・基本方針の検討」②において、「三方よし」にならい、行政、バス事業者、地域の3者と御説明いただきましたが、資料には、交通事業者となっており、私達タクシー事業者や、鉄道等も含めた公共交通事業者が、検討していくことだと考えておりますので、その点に関して御確認をいただきたいと存じます。

○ 座長

その点に関して、事務局側として御意見ありますでしょうか。

○ 事務局

委員の御指摘のとおり、バス事業者だけに限らず、交通事業者全体を含めた形で検討していきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

○ 委員

資料に書かれてあるとおりの解釈でよろしいかと思ひます。

○ 座長

ここでは、バス、鉄道、タクシーを含めた交通事業者として捉えていくということによろしいかと思ひます。また場合によっては、自動車交通も含めた、交通全体に関して検討していくことになるかと思ひます。

○ 委員

アンケートの実施と資料で書かれておりますが、平成22年3月に首都大学東京から「青梅市中心市街地のにぎわい活性化計画」に関する提案がなされており、このような提案も含めて、今回の調査を実施していくということによろしいのでしょうか。

○ 事務局

委員の御指摘のとおり、最新の情報整理とともに、市民の意向を把握するアンケート調査を実施していくことを考えております。またそれだけではなく、更に情報を深度化、分析するうえで、既存のアンケート調査やデータ類に関して、御協力をいただける範囲で提供していただき、総合的に分析し、補完をしていきたいと考えております。

○ 座長

よろしいでしょうか。今の御意見に関しては、資料3（2ページ）実施方針の「課題の抽出・整理」①において、効率的な既存資料の収集・整理と書かれておりますので、これに含まれるのではないかと思ひます。私からもお願いしたいのですが、市やその他の団体等で実施されている調査がありましたら、是非活用させていただきたいと思ひております。それらに加えて、今回この協議会で独自に実施する調査を含めて、総合的に分析をし、課題を抽出していくことが必要になってくると思ひます。それによって、客観的な分析をしていければ良いのではないかと思ひます。

○ 委員

資料3（6ページ）③「利用者実態調査の分析」の2つ目の箇条書きの部分に、「公共負担の対象となっている系統に関しては…問題点を整理する」となっていますが、バス事業者からの希望としましては、青梅市内を運行させていただいている系統の中で、公共負担の対象となっていない系統でも、赤字路線を抱えており、このような系統に関しても、今回の調査で併せて問題点の抽出をしていただけたらと思います。

○ 座長

ありがとうございます。この点に関しては、資料で「特に、…」と書かれておりますので、公共負担の対象となっていない系統も含まれるのではないかとと思うのですが、どうでしょうか。

○ 事務局

はい。資料に書かれているとおり、特に公共負担の対象となっている系統に関しては、詳しく検討していきたいと考えておりますが、調査に関しては、青梅市内全体で実施していく予定でございますので、全体的に問題点等の把握をしていきたいと考えております。

○ 座長

ただいま御指摘のあったケースに関しても、これらを含めた検討をしていかないと、将来的な把握もできないでしょうし、更に見直しをする際に影響もあるかと思っておりますので、全てのケースを調査対象に含めて考えていくことでよろしいかと思っております。また、資料3（6ページ）③で書かれてありますように、公共負担の対象となっている系統に関しては少し注意深く検討していくという捉え方でよろしいかと思っております。

資料3に関しましては、第1回協議会で御説明をしていただき、さらに本日の協議会で更に詳しい御説明をいただいたわけですが、全体をまとめますと、まずは客観的な分析をしっかりとさせていただき事実確認をした上で、資料3（7ページ）に書かれてありますように、①の公共交通体系整備の基本方針で、青梅市に限らずに、公共交通体系がこうあるべきだと方針をしっかりと立てていただいた上で、青梅市の実態に合わせて、②の青梅市における公共交通体系のあり方を決めていただき、現状との比較から、③の公共交通網見直し基本方針の検討をしていただきたいと思います。そのためにも、先程から御意見がありますように、客観的な分析から導いていくことだと思います。

資料3（8ページ）を見ていただければ分かりますように、大変タイトなスケジュールとなっておりますが、皆様の御協力をいただきながら、アンケートの実施、公共交通の利用実態調査を実施していくために、関係する委員の皆様には、今後御協力をお願いするとともに、様々な団体、事業者様の持っているデータ等に関しても、活用できるものに関しては活用していきたいと考えておりますので、ご協力をお願いしたいと思います。よろしくお願いたします。

(3) 青梅市の現状把握について

○ 座長

青梅市の現状把握についてです。事務局より御説明をお願いします。

○ 事務局

資料4は、当協議会での各委員の共通認識を図り、その上で御検討をいただくために作成してございます。青梅市の公共交通にかかる状況は各委員それぞれの御立場で把握なされているものと存じますが、あらためて御確認いただきたいと存じます。

(青梅市の複雑な地形や高齢化が進む人口、バス路線の公共負担額の推移など現状について説明。)

○ 座長

ただいま御説明いただきました現状把握について、皆様から、もう少しこういった点の分析を加えてほしい、現状把握のデータに関しての御指摘等、御意見、御質問いただきたいと思います。

私から、いくつかお願いも含めて質問をさせていただきたいのですが、まずはお願いとして、私は特に青梅市の地名に関しましては詳しくないので、資料の地図に代表的な地名等を入れていただければ、皆様も分かりやすいのではないかと思います。市民の皆様公表する際にも、やはり地名等を掲載した方が良いのではないかと思いますので、御検討いただけたらと思います。

2点目は、追加検討をしていただきたいという思いも含めて、事務局にお伺いしたいのですが、今回の現状整理をしていただいた中で、人口分布、小売業の状況等、市民の生活、交通環境に関して整理をしていただいているのですが、青梅市は観光客も来訪していることから、観光施設の分布や、観光客の移動状況等を含めて検討していかないと、交通体系のあり方や、基本方針を検討する際に、平日、休日を分けて考えていく上で必要だと思うのですが、観光を含めた休日交通に関しては、どの程度まで考えていくのか、お伺いできたらと思います。

3点目は、データを整理していただく中で、まだまだ様々な調査結果があると思うのですが、資料4(8ページ)以降の公共交通網の現状整理に関してですが、自動車交通も含めた人の移動に関して整理していく必要があると思います。その点に関しては、市民アンケート等からも把握できるのではないかと思います。具体的に言えば、パーソナリティ調査等も実施されていると思いますので、そのようなデータ整理も今後行う予定なのかお伺いできたらと思います。

○ 事務局

1点目の、地図の地名に関しては、ご指摘のとおり追加させていただきたいと思います。また今回の資料におきましては、地図等の図面に関して全体的に小さかったと思いますので、この点に関してもお詫び申し上げます。

2点目の、観光に関してですが、週末等の観光客の増加も見られることから、観光施

設の立地分布や、日帰り観光が多いと思いますので、観光客の入込みを整理するのは難しいとは思いますが、一度整理させていただきたいと思います。

3点目の、自動車交通を含めた交通の整理に関してですが、御指示いただきましたとおり、現在、東京パーソントリップ調査にデータの使用申請の手続きをしている段階で、次回の協議会までには時間がありますので、人の移動に関する整理や、今回の資料で提示させていただいた、鉄道端末交通の整理等に関しても行っていきたいと考えております。東京パーソントリップ調査につきましては、平成10年度、平成20年度の整理を行いまして、10年間での移動の変化も合わせて整理をしていきたいと考えております。

○ 座長

様々なデータがあると思いますので、よろしくお願ひいたします。特に、3点目の自動車交通に関しては、資料にも掲載されていますがバスの利用者数が年々減少していることから、今後の更なる高齢化社会に向けて、公共交通の利用者を増やすための、積極的な動きが必要であり、その点で、自動車交通からの転換が重要になってくると思います。そのためにも、自動車を含めた人の動きを把握する必要があると思いますので、よろしくお願ひいたします。

○ 委員

先程話しました、平成22年度に実施した「青梅市中心市街地のにぎわい活性化計画」のアンケート調査では、2,000人を対象に実施し、そのうち約800人が回答したのですが、24歳未満の方の回答が非常に少ない状況でした。高齢者の交通対策も大切ですが、これからの公共交通を支えていく若い世代の公共交通に対する意識や考え方も、是非今回の調査で把握できたら良いと思いました。

○ 座長

御意見ありがとうございます。意向調査に関しましては、次の議題になっておりますので、そのときに調査方法も含めて御意見を伺いたいと思います。

○ 委員

中央線の立川駅までの複々線化ができると、青梅線の入込みが相当変わってくると思うのですが、その点に関する青梅線内の状況を調査する方法はあるのでしょうか。

○ 事務局

御指摘いただきました複々線化に関してですが、ご存知のとおり、中央線の連続立体化事業が終了しまして、次の段階として三鷹～立川駅間の複々線化の事業化に向けて、数年前に行った分析を更に深めるための検討委員会を、沿線の関係市町等で検討を開始している段階でございます。青梅市もその検討委員会の一員となっております、複々線化に伴う青梅線への輸送力、混雑緩和への影響や、更に広範囲での影響やメリット等に関して調査、検討しているところであります。現段階では、具体的に、複々線化によって青梅線がどの程度の増強になってくるのか等に関しては、この検討を踏

まえた上での結果になりますので、ここでは詳しく効果を御説明することはできませんが、その部分に関しても検討委員会と並行して情報の提供ができるようにしていきたいと考えております。ただし、複々線化の事業化に関しましては、課題も多々ありますので、この公共交通協議会で具体的に複々線化の影響を盛り込んでいくことは、難しい可能性もあるかと思っております。詳しくご説明ができなくて申し訳ございません。

○ 委員

複々線化に伴う運行本数の増加によって、単線区間の入込みが難しくなり、中央線からの直通列車は河辺駅止まりが多くなった場合、青梅市としては困ると思うのですが、このような具体的な要望に関してJRに対してできるのかも含めて、御検討していただきたいと思っております。

○ 事務局

委員の御提言も含めまして、JRへの要望に関しましては、青梅市を含む8市町村からなる西多摩広域行政圏でとりまとめをし、青梅市の竹内市長が会長になっておりますけど、毎年8月にJR八王子支社の方へ要望をさせていただいております。この要望の中には、複々線化に伴う増強策や、青梅駅以西の本数増に関しても含んでおり、総合的な観点から整理を行い、この協議会とは別に要望をしてみたいと思っております。

○ 座長

本協議会では、JR東日本の委員の方もいらっしゃるのですが、本日御欠席のため、詳しい状況をお伺いすることができないのですが、委員の御意見にありますような、市内の鉄道運行だけではなく、通勤等での、立川や新宿方面へ向かう運行に関しても、当然関心を持って本調査で扱っていかねばならないと思っておりますので、また状況等が分かりましたら御報告をいただきながら、議論の題材にしていきたいと思っております。その他に、御質問、御意見等、ございませんでしょうか。

○ 池田委員

資料4（9ページ）に「鉄道端末交通の交通手段分担率」のグラフがあるのですが、河辺駅のバス利用者が非常に少なく、東青梅駅、青梅駅、小作駅に関しては比較的バス利用者が多く、河辺駅だけ若干特徴があるように感じるところでございます。なおかつ、河辺駅では、自動車の利用者が多くなっており、できましたらこの点に関して深めて分析していただくと、河辺駅の特徴がでてくるのかと思っております。一方、青梅駅に関しては、自動車利用者が少なく、徒歩の利用者が非常に多いといった、駅によって特徴がでていると思っておりますので、このような点にも着目して分析をしていただけたらと思っております。

○ 事務局

御指摘ありがとうございます。実際にそのような傾向が表れていると思うのですが、こちらのデータに関しましては、平成17年度の大都市交通センサスという調査結果なのですが、ターミナル駅でのサンプル調査になっておりまして、ターミナル駅で調査

票を受取った方の回答ということで、若干精度に課題がある部分もあると思われます。こちらの調査結果と併せて、パーソントリップ調査でも同様の整理を行いまして、同じような結果が出るのかどうかを確認しまして、改めて御報告させていただきたいと思ひます。

○ 座長

パーソントリップ調査に関しましては、サンプル数が少ないため、逆に不安な面もあるのですが、複合的に分析をしていただきたいと思ひます。また、バスの路線や、運行本数のようなサービスレベルの関係によつても、このような特徴が出ているのかもしれませんので、このような点も含めて分析をしていただけたらと思ひます。よろしくお願ひいたします。事業者の方で何か把握されていることがございましたら、その点も事務局側にお伝ひいただければ、分析を更にしていただけたらと思ひます。

○ 委員

資料4（13ページ）の「青梅市内のバス利用者数の推移」のグラフで、平成22年度の定期利用者が前年度に比べると非常に多くなつていますが、この理由はシステムが変化したのか、もしくはシルバーパスを含めた数値なのか、もし理由が分かれば教えていただきたいと思ひます。

○ 事務局

この御意見に関しましては、欠席委員からも御指摘がございまして、この点に関しては交通事業者様と御相談させていただきたいと思ひます。

○ 委員

この点に関してですが、平成22年度の時点では、バス共通カードの使用が終了したため、バス共通カードを使用していた方の定期券へ移行が1つの原因ではないかと思ひわれます。

○ 委員

今の御意見にありましたように、バス共通カードの廃止が1つの要因と考えられますが、詳しい内容に関しましては精査をさせていただきたいと思ひます。

○ 座長

多分、今の御意見にありましたように、バス共通カードの利用者がかなり多かつたものと思ひますので、バス共通カードの廃止に伴い定期へ移つたのかなという感じもしております。そのあたりに関しても、また調べていただいて、分かればご報告をいただけたらと思ひます。よろしくお願ひいたします。その他いかがでしょうか。何かありますでしょうか。また後ほどでも、御気付きの点がございましたら、事務局や私の方へ御連絡いただけたらと思ひます。

それでは、とりあえず現状把握に関しましては基本的な整理をしていただきましたので、今後更なる分析を追加していただくということで、よろしくお願ひいたします。

(4) 意向調査、利用実態調査の実施について

○ 座長

意向調査、利用実態調査の実施についてです。事務局より御説明をお願いします。

○ 事務局

本調査につきましては、今後の協議会での検討を進めるで、重要な調査となります。より公平に、かつ効率よく調査を実施いたし、市民、利用者の需要、要望を把握いたしたいと存じます。

本日、協議会で御議論をいただき、実際の実施にあたっては、今後、各交通事業者のみなさまの御協力を得て進めたいと存じます。よろしく願いいたします。

(3,000人市民アンケート調査、バスOD利用実態調査の実施について説明。)

○ 座長

ありがとうございます。ただいま御説明をいただいたとおり、2つの調査を考えておられるということですが、それぞれの調査を別々に議論していきたいと思いますが、まず「市民アンケート」に関して御意見、ご質問をいただけたらと思います。質問項目の追加、または文言も含めて、項目の修正等、何かございましたらお願いいたします。

○ 委員

アンケート調査の中で、「1人目」、「2人目」という表記をされていますが、特に、設問2のバスの満足度調査、設問3のバスを乗らない方も含めた外出時の移動に関する設問ですが、「1人目」、「2人目」という切り口もあると思いますが、先程、座長からの御意見もありましたように、設問2でしたら、「平日」の満足度、「休日」の満足度のような聞き方もできないものではないのでしょうか。ご家族が2人いらっしゃる方は、このような「1人目」、「2人目」という聞き方もよろしいのではないかと思います。1人の世帯の場合は、例えば、「平日」を左側に記入し、「休日」を右側に記入するといったことも、御検討いただけたらと思います。

○ 事務局

アンケートの構成に関しても検討する必要がありますので、設問項目も含めて再度検討させていただきたいと思います。

○ 座長

そうですね。紙面の制約もあるのでなかなか難しい部分もあるかもしれませんが、先程私が話した休日に関する交通に関しても、もし聞くことができれば良いなど、御意見を伺いながら思った次第ですので、少し御検討をいただいて、もしかしたら別の設問項目を加えるといった方法もあるかと思いますので、事務局で御検討いただけたらと思います。よろしく願いいたします。

○ 事務局

「平日」と「休日」に関してですが、おそらく「平日」と「休日」で結果が変わってくると思われる箇所は、設問2でしたら「運行本数」、「始発・終発時刻」等ですので、少々回答部分が狭くなってしまうかと思いますが、「平日の運行本数」「休日の運行本数」といったように分けることは可能かと思えます。

○ 委員

そうですね。その点につきましては、事業者側としても非常に気になるところでございますので、そういったデータをもし取っていただければ、無理のない範囲でお願いしたいと思います。あと、もう1つ私の意図したところは、設問3（3）の「移動目的」に関してですが、この質問形式ですと、例えば「通勤」で不便を感じていると回答した方で、「買物」でも不便を感じている場合は、「買物」に関しては記入できないということですね。通勤の時は、どのような利用状況で不便を感じていて、買物の時は、どのような利用状況で不便を感じているのかが、もう少し分かるようなデータを取ることができれば、なお良いかと思えますので、その辺についても御検討いただけたらと思います。

○ 事務局

はい。その点に関しましても検討させていただきます。

○ 座長

今の御意見ですが、1人の世帯の場合、「2人目」の項目に休日の交通に関する回答を記入していただくというのですが、そのような方法も可能かと思えますが、少々集計が難しくなるのではないかと思えますので、検討が必要かと思えます。委員の御意見のとおり、人の移動はいろんな形態がありますので、1人に対してより深く聞くということも必要になる場面もあるかと思えますが、設問数が多くなると回答率が落ちてアンケート結果がうまく得られないといったことも考えられますので、その辺りも含めて、事務局側で御検討いただけたらと思います。

○ 委員

アンケートに関してですが、設問に関しては事業者側として聞きたいことをある程度網羅されており良かったと思うのですが、2点ほどお聞きしたいことがございます。1つ目は、OD調査の乗車券の支払方法の設問に関してですが、P a s m oやS u i c aはカテゴリーが回数券となっており、現在6割近くの方がこれらのICカードを利用しているのですが、これらのICカードを利用している方が「回数券」だと分からない場合、「その他」に記入してしまうと思えますので、例えば、ICカードを回数券として処理する場合でしたら、「回数券・ICカード」といった表示にした方が良いかと思えます。

2つ目は、市民アンケート、バス利用者アンケートの両方で聞いている「路線バスの今後の維持・継続」に関しての設問ですが、資料4（14ページ）で「公共負担の状況」

のグラフがありますが、このような情報は青梅市側で、市民の方が簡単に見ることができるように公表されているのかどうかをお伺いしたいのが1点と、設問①の「負担についてご存知でしたか」と②の「公共負担について、どのように思いますか」に関しては、公開している、していないに関わらず、お答えいただくことは可能かと思いますが、③の「どのようにすべきだと思いますか」に関しては、市民が回答するには少々難しいのではないかと思います。ここでのアンケートでは、何となくの感覚で答えていただくのでも良いと思いますが、公共負担を全く知らなかった方に、③のような質問をすると、非常に回答の趣旨が微妙になってくるのではないかと思います。また、バス利用者アンケートでも同様の設問があるのですが、OD調査と併せてアンケートを実施する際に大変ということと、バスの利用者は、バスを存続させたいという感覚から、市民アンケートとは異なる結果が出てくると思うのですが、この点についてどのようにお考えなのかお伺いしたいと思います。

○ 事務局

ICカードに関する御指摘ありがとうございます。普通運賃・現金の場合にもICカードが含まれると思うのですが、この点についてはどうでしょうか。

○ 委員

非常に難しいと思います。私どもも昨年5年に1度のOD調査を実施したのですが、ICカードの取り扱いに関しては、先程御意見がありましたように、ICカードは、現金の代わりに利用する場合、定期券として利用する場合、1日乗車券として利用する場合と様々なので、その点が分かるような表示にする必要があるかと思います。例えば、ICカードの項目を設け、その中に、SF（普通運賃・現金）、定期券、1日乗車券といったように分類し、あまりそれが細かい分類にならない程度で表示するしかないのかなと思います。

○ 事務局

ただいまの委員の方々の御意見を踏まえまして、ICカードの取り扱いに関しては、短時間で調査を行うことも考慮し、御意見を参考にして表示の仕方を工夫していきたいと思います。

もう1点の公共負担に関する御質問に関してですが、資料4（14ページ）に示してある系統別の公共負担額の推移に関してですが、実際に青梅市のホームページでの、「行政報告書」の決算の資料で確認はできますが、基本的に、「行政報告書」のページでしか見ることはできませんので、手軽に情報を市民が得ることは難しいかと思えます。そのため、市民の方には、設問部分での説明文「年間1億5千万円…」で認識していただくという形になっております。

○ 座長

ICカードの取り扱い方については、事務局と事業者様と御相談いただけたらと思います。2点目の公共負担に関する御質問に関してはどうでしょうか。

○ 事務局

公共負担に関する設問の③については、市民にとって設問が難しいかと思いますが、事務局側としましては、このような設問を通して、市民の意向を把握したいと思っております。また、バス利用者とバス利用者でない市民との違いに関しては、それぞれを分けての集計し、更に、公共負担を知っているか知らないかでも分類して集計していきたいと思っております。OD調査での公共負担に関する設問の③については、欠席委員からの御意見にもありましたが、できれば丁寧に利用者の御意見を聞いた方がよいのではということでしたが、バス利用者の御負担にならないように調査を実施していくことが重要ですので、その点に関しましても、事業者様と御相談させていただき、アンケートカードだけを実施するなど、検討をしていきたいと思っております。

○ 座長

確認ですが、OD調査と同時に行うバス利用者アンケートに関しては、聞き取り調査で、その場で回収するというところでよろしいでしょうか。

この公共負担に関する設問の③については、口頭で質問して回答をしていただくということでもよろしいでしょうか。

○ 事務局

事務局側で考えているイメージとしては、回答者にアンケート票と鉛筆を渡して、記入していただくことを考えております。

○ 座長

設問の③については、少々、選択肢が多く文字数も多いため、理解ができないのではという不安と、特にバスの中での回答は難しいのではないかと思いますので、例えば設問をもう少し分けてみることも可能かと思っておりますので、パッと見てすぐに回答ができるような形に工夫していただけたらと思います。

○ 事務局

御指摘にありましたように、もう少し分かりやすいように工夫をして検討させていただきたいと思っております。

○ 座長

はい。やはり分かりやすい設問にしないと、市民の方が一定の内容を理解していただくのが難しいと思っておりますので、工夫をいただきたいなと思っております。

○ 委員

①、②に関しては、市民の方の率直な御意見を伺えればよろしいかと思いますが、③に関しましては、公共負担を減らして、増便をし、路線も継続していくとなると事業者側としては厳しい結果となってしまいうため、その点に関しては御検討いただけたらと思います。

○ 座長

意識調査というのはなかなか難しく、利用者にとっては公共負担を減らしてほしい

という意見が多いことも考えられますので、その辺りもバイアスがかからないように注意しながら、この設問③については、もう一度検討をしていただけたらと思います。重要な項目だと思いますので、削除ということではなく、見直しをしていただけたらと思います。

○ 委員

市民アンケート、OD調査につきましては、事業者側としても、市民や利用者のニーズや意向を把握できるということで非常に期待をしております。そういったなかでOD調査等につきましては、事業者としても御協力をさせていただきたいと思ひますし、先程の御意見にもありました、公共負担をいただいていない路線もあるなかで、その辺の実情ですとか、苦しい面を御理解いただくという面でも良い機会かなと捉えております。そういった中では、OD調査は、平日の1日だけということですが、先程の御意見にありました休日の動向に関しては分からない点や、平日1日だけのデータということで、把握しきれない点もあるかと思ひますので、私共事業者の方からも、差しさわりの無い範囲で、出来る限り情報提供をさせていただきたいと思ひておりますのでよろしくお願ひいたします。

○ 座長

はい、ありがとうございます。是非御協力をいただかないと出来ない部分もこの調査の中でもあるかと思ひますので、もし、既に事業者様の方でOD調査データ等がございましたら、是非御提供いただきたいと思ひております。その他に、なかなか使いにくいかもしれませんが、P a s m oのデータ等もODとして捉えることも可能かもしれませんので、その点も含めて御相談をさせていただけたらと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

今、御指摘いただいた中に、OD調査が平日1日だけとなっていたのですが、休日については調査をしないということによろしいのでしょうか。

○ 事務局

はい。予定として平日1日のみを考えております。それ以外のデータに関しては、様々な既存調査でのデータ等で補完をしていきたいと考えております。

○ 座長

出来れば休日のデータもあった方が良いのですが、費用の件や、短い期間での作業という制約もあることから、まずは平日のデータを見てみるということだと思ひます。休日については、他のデータ等で補完できるものはしていただいて、また来年度以降で必要であれば、追加調査を実施するという捉え方でよろしいかと思ひます。また御検討いただければと思ひます。

○ 委員

公共交通という観点で、福祉交通という見方もあると思うのですが、こちらのアンケートの中ではバス路線に関しての設問となっていますが、タクシーや福祉の有償運行

に関しての満足度や不便に感じていること等の項目を加えられるようであれば、その辺の設問も入れていただければありがたいなと思っております。

○ 事務局

今回の公共交通協議会におきましては、既存のバス路線だけではなく、福祉交通等も含めて横断的に捉えるという視点でおりますので、結果としてどのような交通体系になるかは今後の協議によりますが、そういった視点は必要であると思っておりますので、委員の御指摘も踏まえまして、アンケートの設問に関しても工夫をさせていただきたいと思っております。

○ 座長

それに関連するところで言いますと、資料5（4ページ）のお願い文で「バス交通についてのアンケートにご協力ください」となっていますが、これに関しては、私は、今回はバス交通に関しての調査と捉えていたので、そのままみていたのですが、タクシーや福祉有償交通も含めて調査を行っていくということなののでしょうか。その点に関しまして確認をさせていただきたいのですが。

○ 委員

関連することですが、第1回の協議会で市長がお見えになって、年間約1億5千万円のバス路線に対する負担が大きな問題になっているということで、そこが1つの大きな論点になっていると思っております。そのためには、バス事業者もデータを提供し、市民のために協議を行っていくことが最も重要な点だと思っておりますし、タクシー事業者に関しては補助もほとんど受けずに存続する努力を続けておりますので、今回の調査では、路線バスに焦点を当てて実施していくべきだと思います。

○ 事務局

今回の協議会では、公共交通網全体を捉えていくことが前提となっておりますが、アンケート調査につきましては、委員の御指摘にありました、課題となっておりますバス路線を中心に設問を設定してございます。そういった観点から、路線バスを中心としたアンケートの構成となっており、基本的には、今回提示させていただいたアンケート内容をベースにおきたいと考えております。

ただし、福祉交通のお話も出ておりますので、このアンケート調査とは別に、その点に関しましても検討をしたいと考えております。

○ 座長

ただいま御回答ありましたが、今回の調査におきましては、やはり中心はバス交通だということで認識をしていきたいと思っております。ここで、バス交通と他の公共交通を区別する必要はないと思っておりますので、全体としての地域の中での公共交通として、バス以外の交通に関しての項目があることも否定することはないと思っておりますので、御検討いただけたらと思っております。ただし、福祉有償運行の場合には、ターゲットを絞って満足度とかを調査した方が、サンプルが取れると思っておりますので、今回のアンケート調査

ではサンプルは取り難いかと思われます。

もしかしたら、バス交通や、福祉交通も含めた公共交通に関して、他の地域でもあるのですが、青梅市様の方で市民満足度調査のようなものを実施している場合、公共交通に関する項目もあるのですが、そういった調査は今まであるのでしょうか。

○ 事務局

青梅市での大きな調査といたしましては、世論調査がございます。また福祉関係につきましては、池田委員から何かございましたら御確認させていただきたいと思います。

○ 座長

では、また調べていただいて、交通に関連する調査が他の部署等であるかもしれませんで、是非そういったものは活用していただければと思います。

○ 委員

このアンケートの対象者を 3,000 名抽出するとのことですが、対象年齢は、何歳以上に設定されているのかについて教えてください。

○ 事務局

このアンケート調査につきましては、対象年齢は 15 歳以上とし、上限は設定をしない想定となっております。15 歳以上というのは、高校生以上ということで通学も含めた形を想定しております。

○ 委員

そうしますと、資料 5（5 ページ）の設問 1 の対象者の年齢に関する設問では、1) 14 歳以下は要らなく、2) 15 歳以上の項目以降でよろしいかと思います。また世帯の構成に関しては「14 歳以下の方」が入っても問題はないかと思います。

抽出方法として、3,000 人を抽出して 900 票の回答を得たいということですが、この方法は、青梅市でやっている世論調査の抽出方法と同じ考えでよろしいのでしょうか。

○ 事務局

基本的に、世論調査と同じ考え方でございます。

○ 委員

青梅市の世論調査では、傾向を十分つかめる人数ということで、2,000 人を抽出しているのですが、今回の調査では、15 歳以上を対象にするということで、3,000 人の抽出で良いのではないかと思うのですが、3,000 人にした理由は何かあるのでしょうか。

○ 事務局

抽出の分母の捉え方は、今委員がおっしゃられた内容のとおりかと思います。ただ今回、年齢層を広げている点と、回収率 30%を想定しておりますが、出来るだけ多くのサンプルを取りたいということと、各地区、年齢層に応じて抽出をかけていくなかで、なるべく分母の数を多めに取っておきたいという形で、2,000 人に対して、3,000 人と多めの抽出としました。

○ 委員

先程の御意見にもありましたが、このアンケートは基本的にバス交通に関する内容が中心でよろしいかと思えます。先程、委員からの御意見にありましたように、バス交通以外の交通に関しても別の角度から情報として出てくるとは思いますが、全体的な捉え方としては、バス交通を主にしてアンケートを実施することに重点をおいた方が、回答する側も回答しやすいでしょうし、よろしいのではないかと思います。

○ 座長

ありがとうございます。サンプル数に関しては、通常のサンプル数が青梅市ではどのようになっているのか分かりませんが、事務局からの御回答にあったように、地区を細かく切ったり、年齢で細かく切ったりすると、全体のサンプル数を多く取っておかないと集計が出来ないということもありますので、そういう考えで 3,000 人の数字を取ったのではないかと思います。

また先程、委員から年齢の若い層が取れないという御意見があったのですが、それについてはどのようにお考えですか。非常に難しいとは思いますが、御検討いただいた方が良いと思うのですが、その若い層の回答が欠けても良いという判断をするのも 1 つの考え方だと思いますし、もし必要であれば、世帯の回答を現在 2 人にしているのですが、世帯を全員にすれば、若い層の回答も得られる可能性があると思います。その辺りも、御検討いただいた方が良いと思いますので、今すぐの御回答でなくてよろしいのでよろしく願いいたします。

○ 事務局

先程、委員から御指摘をいただきました中心市街地のアンケート調査につきましては、サンプル数で見た年齢構成では、「55～74 歳」の回答率が非常に高く、逆に「24 歳以下」の回答率は極端に少ないといった結果がございました。一方で、3,000 人の無作為抽出のなかでは、年齢構成に応じた割合で抽出していきますので、抽出段階では年齢構成に対応しておりますが、対象者が 15 歳以上のなかで、なるべく各年齢層の回答を満遍なくいただけたらと思っております。ただし、アンケート調査の結果を見て、特に必要な部分については、補完データも含めて、検討していきたいと考えております。

○ 座長

はい、よろしく願いいたします。若い層の意見を取らないと言い切るのも良くないとは思いますが、もし、高齢者を中心とした交通体系を検討するのであれば、それ以外の年齢層のデータ等に関しては、ODデータ等、他の調査でのデータを用いて補完していくことも考えられますので、御検討いただけたらと思えます。事務局からの御回答にもありましたように、当然、各年齢層からの回答があった方が良いので、アンケートの抽出方法も含めて、御検討いただけたらと思えます。

最後に私からのお願いで、可能であれば御検討いただきたいのですが、折角、3,000 世帯にアンケートを配布するということなので、アンケートに併せて、公共交通の利用促進みたいなこともできれば良いなと思っております。もし可能であれば、事業者

様の路線図や、ホームページの案内なども同封できれば良いのではないかと思います。この辺りに関しては、費用の問題もありますので、事業者様と御検討していただきたいと思います。

今回のアンケート調査では、路線バスに関しての設問となっているのですが、他の自治体等では、コミュニティバスや、乗合タクシーといった新しい交通手段を導入することに対しても市民の意向を聞いているのですが、市民アンケートの設問4③で、代替交通手段について触れられていますが、具体的にコミュニティバスや乗合タクシーといった内容には触れなくても良いのかを、確認させてください。今後、交通体系を再編するにあたって、このような新しい交通も今後検討していくのであれば、そのような交通を認識する設問があっても良いのではないかと思います。

○ 事務局

その点に関しましては、市民アンケートの設問4③の「代替交通手段を用意する」で市民の意向を確認することができますが、その次の(4)「今後の公共交通のあり方」で具体的に御意見をいただくことができますが、今後、新交通システムの導入も検討の中で出てくる可能性もございますので、そういった記述がしやすいように、工夫をさせていただきたいと思います。

○ 座長

決して、新交通システムの導入を求めているわけではないですが、御検討いただければと思います。その他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。だいたい議論をいただいたかと思います。それでは、時間も過ぎておりますので、この議論を打ち切らせていただきますが、もしお気づきの点がございましたら、事務局の方へ個別に御連絡をいただけたらと思います。より良い調査にしていきたいと思っておりますので、是非皆様の御協力をいただきたいと思います。特に、事業者様には、御協力をいただかないと出来ない調査もあると思っておりますので、御協力をよろしくお願いいたします。また、市民の皆様にもアンケートに答えてもらわなければいけませんので、是非御協力をいただければと思っております。

それでは、御準備をいただきました協議事項の4つ目も終わりましたが、その他で何か協議すべきことはありますでしょうか。

- 発言なし -

よろしいでしょうか。無いようですので、協議を終了したいと思います。熱心な御協議ありがとうございました。

5 閉会

○ 会長

轟座長、大変ありがとうございました。また、各議員からも貴重な御意見をいただきまして、まことにありがとうございます。事務局と委託業者につきましては、御意見

を踏まえまして、貴重なアンケート調査となりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。事務局側から連絡事項ありますか。

○ 事務局

特にございませぬ。

○ 会長

次回の協議会に關しては、計画上では1月を予定してありますが、別途、委員の皆様にはご連絡を差し上げたいと思ひます。それでは、長時間にわたりまして御協議をいただき、大変ありがとうございました。これをもちまして第2回青梅市公共交通協議会を閉会いたします。